

2006年12月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、北西太平洋で正偏差、アリューシャン列島付近で負偏差、北米大陸で正偏差と、波列パターンが見られた。東ヨーロッパでは正偏差が卓越した。

熱帯の対流活動は、インドネシア付近で不活発だった一方、インド洋と北太平洋の熱帯収束帯域 (ITCZ) では活発となり、特にインド洋赤道域では、月の後半にかなり活発となった。また南太平洋の熱帯収束帯域 (SPCZ) は、平年より南寄りに位置し、中部太平洋の南半球側では不活発となった。大西洋ではアフリカ西部を中心に不活発だった。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、インド洋東部から西部太平洋にかけて、高気圧性循環偏差が分布し、特に北太平洋の北緯20°~30°帯とオーストラリアで顕著な高気圧性循環偏差が見られた。一方、インド洋西部では低気圧性循環偏差が見られた。また東部太平洋から南米にかけては高気圧性循環偏差が見られた。

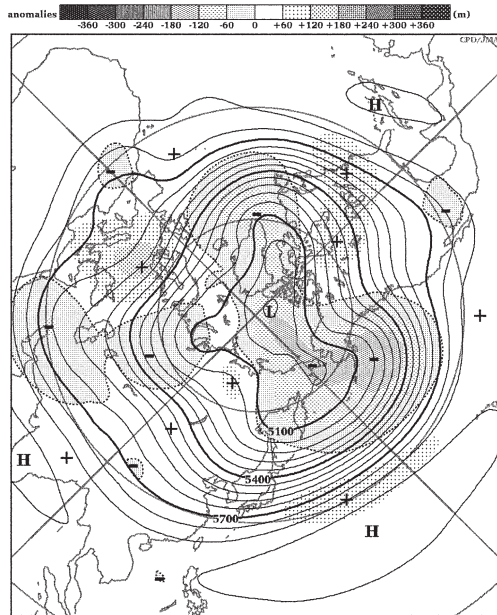
SOI (南方振動指数) は-0.1と2か月連続してゼロに近い値となった。

世界の天候

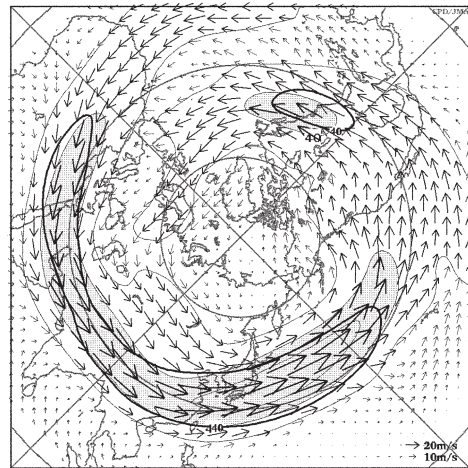
- ① サハリンから中国東北区の少雨
- ② 日本から朝鮮半島の多雨
- ③ モンゴル北部から西シベリアの高温
- ④ 西シベリアからヨーロッパ北部の多雨
- ⑤ 太平洋西部からインドネシアの高温
- ⑥ インドネシアからニューカレドニアの少雨
- ⑦ パキスタンからイラン南部の多雨
- ⑧ ロシア西部からグリーンランド南東部の高温
- ⑨ 黒海周辺の少雨
- ⑩ トルコからアラビア半島の低温
- ⑪ 米国中部からメキシコ湾岸の多雨

米国中西部では、月の初めに大雪や暴風雨に見舞われ、大規模な停電と10人以上の死亡が伝えられた。

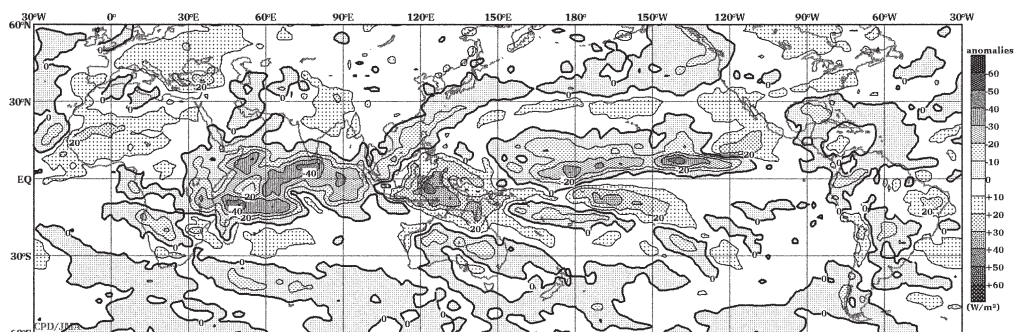
- ⑫ 南米北部から中部の高温
- ⑬ ブラジル南部からアルゼンチン北東部の多雨
ブラジル東部のエスピリト・サント州とミナス・ジェライス州では、中旬の大雨により4人が死亡したと報じられた。
- ⑭ オーストラリア東岸からニュージーランドの低温
(気象庁地球環境・海洋部気候情報課 松田亜希子)



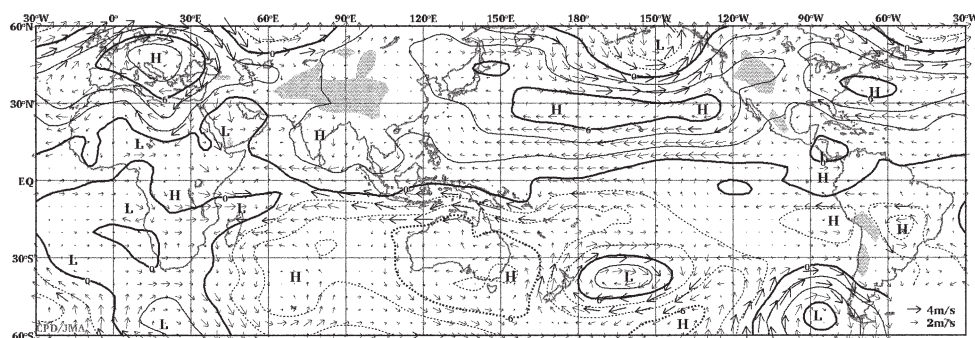
2006年12月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 陰影は平年偏差。平年値は1979~2004年のデータから作成。



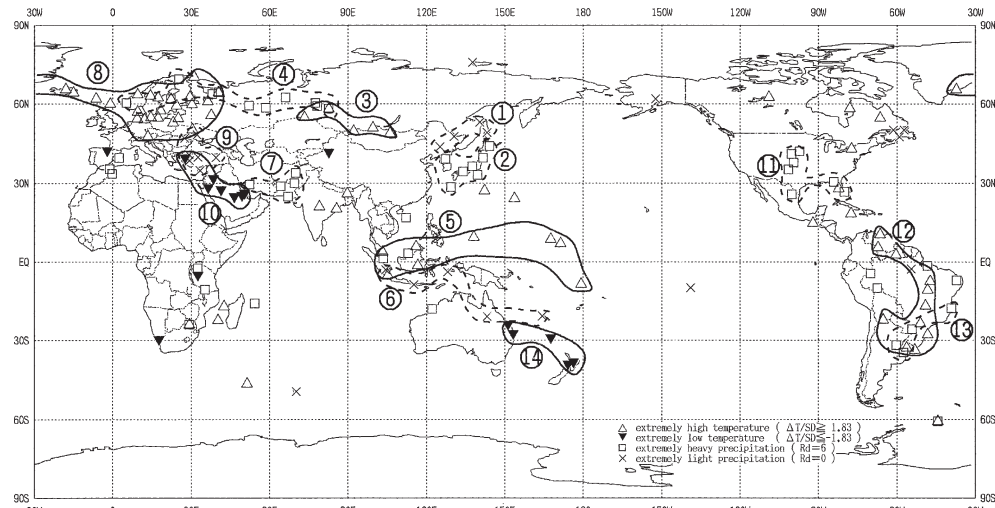
2006年12月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1979~2004年のデータから作成。



2006年12月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA、平年値は1979~2004年のデータから作成。



2006年12月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、平年値は1979~2004年のデータから作成。



2006年12月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。